

ティーチング・ステートメント

所属 臨床工学科

名前 山下 政司

作成日 2020年9月9日

更新日 2023年3月22日

【責任】

生体医工学の専門家として、学部生に対しては臨床工学のうち、工学系を中心に講義・実験・実習を担当し、臨床実習、卒業研究、就職活動などについて指導している。大学院生に対しては、臨床工学・保健医療学の講義の他、合同ゼミ、学会発表練習、学会投稿原稿・論文執筆などで指導。

【理念】

賢人曰く大学は独立人格形成の場である。そのうえで、「自ら思考し、責任をもって社会的役割を果たして活躍できる人材」を輩出することが社会的責務と考える。具体的には、様々な状況が起こる医療現場・各職場で「今何が起きているのか」について医学的・科学的あるいは心理的・社会的な本質を見抜いて適切な対処ができる人材を育成する。幅広い基礎知識と技術を基に現象理解に役立つ想像力と問題解決の対処法を編み出す創造力を醸成したい。また、医療職に進む学生が多いことからME2種試験および国家試験に合格するため、なるべく多くの学生を合格に導くためのわかりやすい講義と試験対策および学習トレーニングを充実させたい。さらに、責任感を持ち、チーム医療や協同作業を実施できる協調性、積極性、他者への共感・気遣いができる力を醸成したい。

【方針・方法】

理念の含む、思考力・責任遂行力の醸成、資格試験合格、チームワーク力や共感力を醸成するには、常に以下の方針を意識して機会があるごとに実施する事項、資格試験合格のためにわかりやすいが資格試験に対応できる講義資料を含めた講義の常なる改善と学生との意思疎通、チームワーク力や共感力向上のためには実験実習・卒業研究におけるそれらを配慮した仕組みや声かけの意識をもつことなどがあげられる。

★思考力の醸成

方法1：講義や実験実習のレポート・口頭試問、ゼミ活動等で、物事に対して「何故？」と「根拠」を考えさせる。また、ヒントを与えながら一緒に考える機会を持つことを習慣とする。

方法2：テーマを与えてのプレゼンと質疑応答を通して思考力を培う（文献、技術等）

方法3：卒論生に毎週1分間スピーチさせる（前週の出来事について等）

方法4：卒論生に生体計測中のデータを確認させ、その変化の背景を理解させる

★責任遂行力の醸成

方法1：学生実験・実習、卒論実験、臨床実習指導を通して、

グループワークでの役割を与え、責任を持たせて実行させる

方法2：卒論生の卒論実験に同席し、各人のトレーニングを行う

★資格試験合格

担当教育は工学系と試験前の医療機器系の基礎・専門知識である。

方法1：講義配布資料の常時改善

- ・イメージしやすい図・写真・ビデオ等を多用する
- ・講義内容を確認してまとめさせるノートの提供と時間の確保
- ・前回授業の内容からの小テストと解説の実施
- ・ME2種過去問・国試過去問の提供と実施と解説
- ・機械や器具、医療用品を回覧したり、簡易実験してイメージを持たせる工夫
- ・基礎学力の確認と基礎力不足への配慮

方法2：学生とのコミュニケーション

- ・学習習慣づけ（小テスト；復習・講義まとめの作成）
- ・モチベーションを持たせる工夫
（何に使われるのか、学ぶ意義は何なのか、現場トラブル事例等を提示）
- ・講義中の問いかけ
- ・理解ができない学生への講義進行への配慮
（学生同士のディスカッション、ペア学生への説明、問いかけによる確認、個別指導）
- ・講義以外での個別対応

方法3：体験の導入

- ・現象の観測、器具・装置操作をさせて理解を深める

★チームワーク力・共感力の醸成

